

伝統の堅持とイノベーション

国際関係学院学生代表

見学日時：2016年12月2日（金）16:00-19:30

見学場所：三井物産株式会社

見学概要

午後4時、私たちは定刻通りに三井物産株式会社(以下、三井物産)を訪れた。そこではまず株式会社三井物産戦略研究所の平塚眞二氏から三井物産の会社概要や事業内容などについて紹介があった。三井物産は1947年に設立された日本屈指の総合商社である。そして2016年3月末現在66の国と地域に139ヵ所の拠点を設け、総資産は10兆9000億円、連結従業員数は43,611名に上っている。三井物産は「伝統の堅持とイノベーション」が交わった企業であり、物流ネットワーク型やハイブリッド型のビジネスモデルを採用し、マーケティング、金融、物流、リスクマネジメントやフロー構築の能力を兼ね備えている。そして「360° business innovation」をコーポレートスローガンとし、絶えず「挑戦と創造」を行い、大切な地球と、そこに住む人びとの夢溢れる未来作りに貢献している。会社の紹介が終わった後は懇親会が開かれ、私たちは三井物産の中国人や日本人従業員の方と交流を持つことができた。その際彼らから会社の業務の状況や会社での日常の様子、そして彼ら自身の実感などについて紹介があり、私たちは三井物産についてより詳しく知ることができた。従業員の皆さんはとても親切で優しく、懇親会は楽しい雰囲気の下で行われた。



知っていますか？

問:三井物産のような大型総合商社が従業員に求める条件とは？

答:三井物産では毎年多くの海外駐在員を国外の業務に派遣している。そのため高いレベルの英語・日本語力を持ち、かつ海外での業務や生活に前向きであることが求められる。そして居住国の文化や価値観の違いを理解し、受け入れる努力も必要である。

問:三井物産の事業範囲は多岐にわたっているが、彼らはどのようにそれらを管理しているのか？

答:三井物産では、整備されたガバナンスやリスク管理体制の下、従業員にも「コンプライアンスを尊重する精神」を持った人材育成を行い、従業員は自律的に行動規範や会社の各規定を遵守する。また提携パートナーの選択は、三井物産が継続的に事業を行う上での重要なプロセスであり、会社としてはとても慎重に審査を行っている。提携

期間中、相手側に条件の履行が困難な状況或いは会社状況についての虚偽報告等があった場合は、直ちに相手側との提携を中止する判断もある。

問:三井物産での業務とは、どの様なものなのか？

答:大多数の日本企業と同じく、三井物産もキャリアに応じて従業員を昇進させており、一定のCDP(キャリア・デベロップメント・プログラム)を経た後は、その能力に応じて更なる昇進をさせる方式を採っている。中国人従業員から見て日本人従業員は非常に熱心に仕事をしている。また日本企業での仕事はとても厳しく、深夜までの残業もしばしばあるが、そうした仕事の後に得られる達成感は何ものにも代え難いとのことである。

感想

三井物産株式会社での短時間だったが心温まる交流の後、私は同社のイノベーション精神に深く感動した。これほど大規模で歴史もある総合商社が、過去の業績にあぐらをかき、伝統に固執することなく、逆に時代の変化に順応すべく努力を続け、自己改革を絶えず行っている。彼らはまたイノベーションを企業の価値観に組み入れ、企業の経営理念に融合させることで、従業員が変化の波を確実に捉え、事業革新の継続的展開や自主的な業務革新の促進をすべく促している。彼らのこうしたイノベーション精神はすべての人が学ぶべきもので、古いものに拘ってはい、いつかは社会に淘汰されてしまう。絶えずイノベーションを推進することでのみ、業界の先頭を走ることができるのである。

